

定理 1.29 $f: X \rightarrow Y$ が全単射であれば, f の逆関係 f^c は $Y \rightarrow X$ の全単射である。

【証明】

$f = \{ \langle x, y \rangle \mid (x \in X) \text{かつ} (y \in Y) \text{かつ} (f(x) = y) \}$, $f^c = \{ \langle y, x \rangle \mid \langle x, y \rangle \in f \}$ 。

- (1) f が全射なので, 任意の $y \in Y$ に対して, ある $\langle x, y \rangle \in f$ 。すなわち, $\langle y, x \rangle \in f^c$ 。ゆえに, f^c の定義域が Y である。 f が単射なので, 一つの $y \in Y$ に対して, 一つだけ $x \in X$ が存在し, $\langle x, y \rangle \in f$ 。すなわち, $\langle y, x \rangle \in f^c$ 。ゆえに, f^c は Y から X への関数である。
- (2) f が全射なので, $f(X) = Y$ 。すなわち, $f^c(Y) = X$ 。ゆえに, f^c も全射である。 f^c が単射でないとすると, ある $y_1 \neq y_2$ が存在して, $f^c(y_1) = x_1 = f^c(y_2) = x_2$ となる。よって, $f(x_1) = f(x_2)$, すなわち $y_1 = y_2$ となり, 矛盾する。ゆえに, f^c は単射である。
- (1)と(2)より, f^c は全単射である。